社　会　科　学　習　指　導　案

指導者　　陣　場　峰　雄

１．日　時　　平成１８年２月７日（火）５校時
２．学　級　　２年１組　男子１８名　女子１４名　合計３２名
３．主　題　　第６章　現代の日本と世界　　第２節「第二次世界大戦と日本」
４．主題について

この単元では、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きにふれながら、世界恐慌、昭和恐慌による経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことなどを扱うことになっている。この単元を学習させる意義としてとして次のことがあげられる。第一には、現代のアジア情勢や、今日の国際平和や国際協調の精神を考えさせる上で基礎となる内容であることがあげられる。第二には、第二次世界大戦の発端から集結にいたる経緯とその背景、影響など歴史的事象の意味を考えさせるため、歴史的事象を多面的、多角的に考察する力をつけることに適切な学習内容となっていることである。第三には、一つ一つの歴史的事象がドラマチックであり視聴覚教材として残されていることが多いので、生徒の歴史に対する興味・関心を高めることにつながることである。これらの学習を通して歴史認識を深めることは、社会科の目標として掲げられている「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことにつながるものである。以上のことからこの単元は生徒の歴史的思考力や歴史に対する関心を高めるなど学習する意義が大きいものであると考える。

生徒は概ね歴史に興味・関心が高い。また、予習を学習プリントに従って行うことが定着してきており、中には自分なりの疑問を持って教科書の未習部分を読み進める生徒もいる。但し、生徒の多くは、歴史的事象個々の内容をおさえることはできても、事象間の因果関係を推測したり、共通性を見いだしたりするなど関連思考が不足している。点として歴史をとらえることはできても線としてつなげて考える力がまだ不足しているのである。それは、歴史的事象を一面で見たり、歴史学習は暗記するものと思いこませ、知識を断片的にしかとらえさせてこなかったからではないかと考える。

そこで、一つの歴史的事象は、それが先の事象の結果としてあり、また次の事象の原因となっているという視点を実際の事件を通して把握させる。また、単元の最後の時間に単元全体を貫く学習課題を設定し、既習事項をよりどころとして自分なりに考えた答えを発表させる方法をとりたいと考える。学習課題に対する答えは、自分なりの意見を構築させるという形をとるが、既習事項を関連づけさせるものであることに留意したい。その際、単なる感情論で終わらせることなく、妥当性のある根拠をもとに考え出されたものになるようにさせたい。そのような過程を経ながら事象の意味を段階的に深めてとらえさせたいと考える。

５．指導と評価の計画（別紙）

６．本時の達成目標

社会的事象への関心・意欲・態度	単元の内容を総括する学習課題を解決するために他の発表を傾聴し、共感したことを中心に自分としての意見を進んで記述したり、発表したりしている。
社会的な思考・判断	単元の内容を総括する学習課題に対するまとめを、既習事項と関連づけたり、事象間の因果関係を的確に捉えたりしながら記述している。
資料活用の技能表現	単元の内容を総括する学習課題に対するまとめをノート、資料集など複数の資料から的確な事項を選び、自分のことばで記述したり発表することができる。
社会的事象についての知識・理解	世界恐慌から第二次世界大戦の終結までの主な流れを重要な用語を使い、時代の節目となる出来事にふれながら、記述したり発表したりすることができる。

７．本時の指導の構想

(1)　指導構想及び留意点

今回の授業は、第２節「第二次世界大戦と日本」の最後の時間であり総括的な役割を持つところである。学習課題は、第二次世界大戦の原因となり得た主体は何かという内容を考えさせるものである。その際、生徒が資料や教科書の記述の写しに終わらぬよう、資料に共感的な内容を盛り込み、切実感をもたせて自分の考えをまとめるようにさせたい。また、既習事項の想起のために視覚に訴える資料もふんだんに盛り込み、授業を進めたいと考える。因果関係を見いだす視点は、指導計画の中でくり返し伝え、机間巡視などをしながら助言していく。また、板書も生徒の思考を促すように、生徒の発表の要点を書いたり、構造的に表したいと考える。

(2)　かかわり合いを生かす手だて

第二次世界大戦の発端から終結に至るなかで、大きな出来事を視聴覚教材や年表資料でふり返り、このような戦争の流れをふまえつつ、このような惨禍も生み出してしまった戦争は、いつの時点だったら防ぐことができるのか、について問いかけてみる（教師、教材とのかかわり合い）。生徒は、戦争の悲惨さを十分学習しているので、中学生なりに、「こんな戦争はおこしてはならなかった。」とどの子も思うだろう。そこで、、いつだったらくい止めることができたのかを課題にして考えさせたい。（学習課題の必然性）。生徒の発言を他の発言に結びつけたり、比べたりして段階的に掘り下げた問いかけをしていく（生徒相互のかかわり合い）。ここまでの指導過程が必然的に流れるよう進めていきたい。また、学習課題の考えとして自分がなぜそう思うのか、既習事項で関連すると思う複数の事象とその因果関係を再認させる。それを自分の考えの根拠の「よりどころ」として考えさせ、自分のなかで、想起された用語に脈絡をつけながら課題の答えとして伝える内容にまとめさせたい。この段階で「『ことば』を正しく豊富に使う」ことを強調した授業を進めていきたいと考えている。また、日本人が気付かない日本に占領された国民の考えを紹介して、視点が変わると考えもこれほど違うのかという発見を感得させ、歴史のおもしろさと奥の深さについて気付かせ、次の学習意欲につなげていきたいと考えている。

８．本時の展開

〈A〉達成度〈B〉学習速度〈C〉取り組み方（学習の仕方）〈D〉見方・考え方〈E〉興味・関心〈F〉生活経験

段階	過程	時間	学　習　活　動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導入	課題把握	10分	１．世界恐慌から第二次世界大戦の終結までの惨禍の場面を想起する。 ２．惨禍の状況を見て感じたことを述べる。 ３．学習課題をつかむ。 日本はいつだったら、戦争を防ぐことができたのか？ 自分の考えを、資料をもとにまとめてみよう。		１．関心を高めるよう効率よく映像を提示する。〈E〉 ２．生徒の、「ひどすぎた」、「二度とくり返してはならないと思う」などの発言を取り上げ、学習課題へつなげる。〈E〉 ※ 原因の選択肢については、前時間での授業で問いかけ、その時点での生徒の考えたことで本時に結びついていることを類型化し用意しておく。	□一斉 ■写真ポスター ■ＶＴＲ
展	課題追究 課題解決	30分	４．自分の考えをまとめる。 ５．班内で考えを述べ合う。 ６．班で話し合った結果を発表する。 ７．各班で出された内容に対して共通性を見つけ、確認する。 ８．最終的な自分の考えをまとめる。	４、５、６ 〈記述内容・発表内容〉 **学習課題に対する自分の考えを、既習事項と関連づけたり、事象間の因果関係を的確に捉えたりしながら記述している。** A：複数の事象、妥当性のある因果関係、関連、順序制 C：学習課題に対し、考察が進められるようによりどころとなる知識を与える、自分なりの答えをまとめさせる。	４．年表資料をもとに、原因と結果の関係を考えながら、歴史を遡って見ていくことを助言する。〈C、F〉 ５．「班討議の仕方」に準じて進めるよう助言する。 ※机間巡視をして、班討議の動向をつかんでおく。 ６．なぜそのできごとだと思うのか、原因と結果の連鎖に留意して考えていくようにと思うのか、歴史上のできごとを具体的に複数あげながら答えるように助言する。〈D〉 ７．既習の用語を因果関係に留意し、比較したり、関連づけたりしながら理由を考えるよう助言する。　〈D、E〉 ８．・周囲の意見から気づいた新しい見方や考え方にふれながら書くように補足する。（書いた紙は授業終了後提出させ、次時に紹介する旨を伝える。）〈A〉 ・各班の発表を聞いて、初発の考えより、理由となることがらが、多く、より確かだといえるように問い直させる。	□個別 ■ノート、教科書 ■年表資料 ■文章資料 ■文章資料 □一斉 □一斉 ■文章資料、ノート
終末	まとめ	10分	９．今回の授業について、教師から講評とまとめを聞く。	９〈記述内容・発表内容〉 **第二次世界大戦終の大きな節目を重要な用語を適切に使い、複数の事象にふれながら記述している。** A：複数の事象、正確性、妥当性のある因果関係、関連、順序性 C：満州事変、ポツダム宣言など基本的な用語を教科書などで調べさせ、その用語を他の発表の時に確認させる。	９．・日本とアメリカの立場ではなく、東アジアのある国の国民としての考えを紹介する。〈D、E〉 ・立場を変えて考えると昭和にとどまらずそれ以前の歴史的事象まで一つの線につながることに気づかせる。	□個別 ■ノート

「赤紙が家に来た」資料　アジア太平洋戦争関係のできごとのおもな流れ

西暦	和暦	月	おもなできごと
１９２９	昭和　４	10月	アメリカ、ニューヨークで株価大暴落、**世界恐慌**が始まる
１９３０	昭和　５		日本で昭和恐慌が起こり、小作争議、労働争議が激しくなる。
１９３１	昭和　６	９月	南満州鉄道（満鉄）爆破事件（柳条湖事件）。**満州事変**起こる。
			※中国　国民政府が国際連盟に日本の侵略を訴える
１９３２	昭和　７	５月	１５日、海軍の青年将校が犬　養　毅首相を暗殺する。（**５・１５事件**）
１９３３	昭和　８	２月	日本が国際連盟を脱退する。
１９３４	昭和　９	３月	満州国で溥儀が皇帝になる
１９３６	昭和１１	２月	２６日、陸軍の青年将校が大臣を暗殺する。（**２・２６事件**）
１９３７	昭和１２	７月	ペキン郊外の蘆溝橋　近くで日中両軍が衝突（蘆溝橋　事件）
			日中戦争が始まる
		12月	日本軍がナンキンを占領。**ナンキン虐殺事件**がおこる。
１９３８	昭和１３	１月	近衛文麿首相が　「国民政府を相手とせず」と声明
		４月	「国家総動員法」　発布
１９３９	昭和１４	５月	モンゴル国と満州との国境のノモンハンで日本軍とソ連軍が武力衝
		９月	突。日本軍壊滅。（ノモンハン事件）
１９４０	昭和１５	10月	**日独伊三国同盟**を調　印。（松岡外相）
			大政翼賛会が発足。
１９４１	昭和１６	３月	小学校の名を「国民学校」と改める。
		４月	「日ソ中　立条約」を調印。米が配給制となる。日米和平案流れる。
		７月	フランス領インドシナ（ベトナム）南部に出兵。
			※このころアメリカ、イギリス、中国、オランダの
			「ＡＢＣＤ包囲陣」が危機感を強める。アメリカ、対日石油輸出禁止
		10月	**東条英機内閣（軍事政権）成立。**
		11月	日米交渉がゆきづまり、アメリカ国務長官ハルから中国からの全面撤退などを求める「ハルノート」が日本側に渡される。（日本が受け入れなかったので日米和平交渉決裂）
		12月	１日、御前会議で日米開戦決定。
			８日、ハワイの真珠湾の海軍基地を急襲。アメリカに宣戦布告。
			「**アジア太平洋戦争**」が始まる。暗号文「ﾆｲﾀｶﾔﾏﾉﾎﾞﾚ 1208」
			※マレー半島での進軍を開始。東南アジアに占領地を広げる。
			※アメリカは日本・ドイツ・イタリアに宣戦布告し、第二次世界大戦に参戦。
１９４２	昭和１７	５月	「金属回収令」で全国のﾅﾍﾞ、ｶﾏ、ﾔｶﾝ、お寺の鐘、銅像、街路灯が回収された。
		６月	北太平洋のミッドウェー島の海戦で日本の連合艦隊（主：戦艦大和）が敗北。日本が敗戦にかたむく。
			ガダルカナル島の守備隊が玉　砕（全滅）。このころから各地の激戦地で部隊が玉砕するようになる。
		７月	全国中学校野球大会が中止になる。
１９４３	昭和１８	９月	空襲に備え、上野動物園の猛獣を毒殺する。イタリア、無条件降伏する
		10月	大学生が出陣（学徒出陣）。
		11月	「大東亜共栄圏」の会議が東京で開かれる。
１９４４	昭和１９	６月	学童疎開を強制する。
		７月	サイパン島守備隊が玉砕。アメリカはそこを基地として大型爆撃機Ｂ２９による日本本土への空襲を本格的に開始。
		８月	「国民総武装」が決定され、竹槍訓練が始まる。
			学徒勤労令　公布。中学生などが工場で働くようになる。
		10月	フィリピンのレイテ島沖の海戦で連合艦隊壊滅。神風特攻隊が初出撃。以後 2500 機。人間魚雷「回天」、人間ボート「震洋」、人間ｸﾞﾗｲﾀﾞｰ「桜花」…生還の可能性無し。
１９４５	昭和２０	１月	政府、本土決戦計画決定。
		３月	９日**東京大空襲**。（死者７２０００人）、23 日、米軍、沖縄諸島に上陸。
		４月	アメリカ軍が**沖縄本島上陸**。全国の都市が空襲を受ける。
		５月	ヒトラー自殺。ドイツ降伏。
		６月	15 歳～ 50 歳男子、17 歳～ 40 歳女子を「国民義勇隊」に登録。
		８月	26 日、ポツダム宣言が発表される。日本は応じず。
			６日、**広島に原爆投下**。
			８日、ソ連が対日　宣戦布告。
			９日、**長崎に原爆投下**。
			ソ連、日ソ中立条約を破り、満州、千島列島に侵攻する。
			１４日、ポツダム宣言の受諾をスイスへ打電。
			１５日、天皇が**終戦の　詔**　をラジオで放送。（「**玉音放送**」）